

平成 28 年度 修士論文

平和的・民主的な態度を育てる  
オリンピック・パラリンピック教育の在り方  
Olympic and Paralympic Education to cultivate  
peaceful and democratic attitudes

弘前大学大学院 教育学研究科 教科教育専攻

保健体育専修 保健体育科教育分野

15GP223 工藤 真子

Mako KUDO

指導教員：上野 秀人

## 目次

<b>I 主題設定の理由</b> . . . . .	<b>1</b>
1 今日的課題から . . . . .	1
2 学習指導要領から . . . . .	1
3 先行研究の成果と課題から . . . . .	2
<b>II 主題の意味</b> . . . . .	<b>3</b>
1 平和的・民主的な態度とは . . . . .	3
2 オリンピック・パラリンピック教育とは . . . . .	3
<b>III 研究の目標</b> . . . . .	<b>3</b>
<b>IV 研究の仮説</b> . . . . .	<b>3</b>
<b>V 研究の構想</b> . . . . .	<b>4</b>
<b>VI 検証授業に向けての構想</b> . . . . .	<b>4</b>
<b>VII 授業の実際</b> . . . . .	<b>5</b>
1 オリンピック・パラリンピック教育プログラム構築の考え方 . . . . .	5
2 単元計画 . . . . .	7
3 授業の実際 . . . . .	8
(1) 特別活動 . . . . .	8
(2) 体育 . . . . .	12
(3) 体育 . . . . .	14
(4) 道徳 . . . . .	16
<b>VIII 結果と考察</b> . . . . .	<b>20</b>
1 アンケート結果より . . . . .	20
(1) 公正・公平と称賛の項目について . . . . .	20
(2) 思いやりと協力の項目について . . . . .	20
2 児童の様相より . . . . .	21
検証の視点 1: 「フェアプレーを意識化・細分化することができたか」 . . . . .	21
検証の視点 2: 「フェアプレーを守ることができたか」 . . . . .	21
検証の視点 3: 「審判で支える立場からフェアプレーを判断することができたか」 . . . . .	21
検証の視点 4: 「公正・公平の視点でルールをつくりかえることができたか」 . . . . .	22
検証の視点 5: 「公正・公平の視点から選手・審判・観客に向けた手紙を書くことができたか」 . . . . .	22
<b>IX 研究のまとめ</b> . . . . .	<b>23</b>
1 研究の成果 . . . . .	23
2 今後の課題 . . . . .	23
<b>【引用文献】</b> . . . . .	<b>24</b>
<b>【参考文献】</b> . . . . .	<b>24</b>

## I 主題設定の理由

### 1 今日の課題から

2020年、東京でオリンピック・パラリンピック（以下、オリ・パラと記す）が開催される。それに伴いホスト役としてオリ・パラの価値や意義を理解し、国民の機運を高めるための様々な取り組みがなされている。オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議では、オリンピック・パラリンピック教育（以下、オリ・パラ教育と記す）の方針が打ち出され、有形・無形のレガシーの創出の観点からもオリ・パラ教育の推進を図ることが重要であるという見解を示している。

オリンピック憲章（2015年版）ではオリンピズムの目的を「人間の尊厳保持身重きを置く平和な社会を奨励することを目指し、スポーツを調和のとれた発達に役立てること」<sup>1)</sup>としており、オリンピック・ムーブメントの目的を「オリンピズムとオリンピズムの価値に則って実践されるスポーツを通じ、若者を教育することにより、平和でより良い社会の構築に貢献すること」<sup>1)</sup>と記している。また、平成23年にはスポーツ基本法が定められ、スポーツに関する基本理念を、国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的としている。この前文では、スポーツの価値や意義、役割などが6つ示されている。その中で「スポーツは、次世代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすもの」、<sup>2)</sup>「スポーツの国際的な交流や貢献が、国際相互理解を促進し、国際平和に大きく貢献するなど、スポーツは我が国の国際的地位の向上にも極めて重要な役割を果たすもの」<sup>2)</sup>であることが示されており、オリンピズムやオリンピック・ムーブメントの目的と合致している。

「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて（中間まとめ）」及び「最終報告」では、オリ・パラ教育を通じて目指すべきものとして、スポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて活躍できる人材の育成、オリンピック・パラリンピックを題材にしてスポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上、障害者を含めた多くの国民に生涯を通じたスポーツの主体的な参画の定着・拡大、児童生徒をはじめとした若者に対するこれからの社会に求められる資質・能力等の育成が挙げられている。その具体的内容を「オリ・パラそのものについての学び」と、平和でより良い世界を構築する次世代の若者の育成という観点から「オリ・パラを通じた学び」の2つに大別している。「オリ・パラを通じた学び」では、「スポーツの価値」を学ぶことが考えられており、態度面の育成に重きを置いている。

### 2 学習指導要領から

現行の学習指導要領では、中学校保健体育編の「H 体育理論」にオリ・パラに関する内容があり、第3学年の「3 文化としてのスポーツの意義」では「スポーツは文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要である」こと、「オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割をはたしている」こと、「スポーツは、民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付ける文化的な働きがあることを理解する」ことが記されている。小学校の体育では「体育理論」の学習がないため、体育授業で直接学ぶ機会がないが社会科では第6学年で扱うこととなっている。「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて」ではフェアプレーの精神や思いやり、ボランティア精神、多様性を尊重する態度などの資質・能力が子供たちにレガシーとして受け継いでいけるようにオリ・パラについて学習指導要領に明確に位置付けることを検討している。

また、「教育課程特別部会体育・保健体育、保健、安全ワーキンググループにおける取りまとめの概要」では、小学校体育でのオリンピック・パラリンピックに関する指導の充実について「児童の発達の段階に応じて、ルールやマナーを遵守することの大切さをはじめ、スポーツの意義や価値等に触れることができるよう指導等の在り方について改善を図る。」としており、小学校段階におけるオリ・パラ教育は学校の教育活動全体を通じた教育、態度面を重視した教育を行うことが求められている。

このことから、オリ・パラ教育で学ぶべきスポーツの価値を取り入れ、平和的・民主的な態度の育成をめざした本研究は、意義深いものである。

### 3 先行研究の成果及び課題から

#### (1)1964年東京大会のオリンピック教育<sup>3)</sup>

日本では1964年の東京大会の際に、大会の成功を目指して「オリンピック国民運動」が展開された。文部省から昭和39年4月に「学校におけるオリンピック国民運動の取り扱い（通達）」が出され、学校教育の中でオリンピックが学習された。社会教育の場でも、オリンピック教育が行われた。表1はその目的と内容をまとめたものである。

表1:オリンピック国民運動の内容と学校教育と社会教育（真田「2020年オリンピック東京大会へ向けての展望」, 2014より

作表, 工藤)

	「オリンピック国民運動」	「学校におけるオリンピック国民運動の取り扱いについて」	社会教育でのオリンピック教育
目的	オリンピック精神の普及・高揚及び市民性の向上を図ること。	児童生徒にオリンピック精神を培い、日本人としての自覚に立ちながら国際親善と世界平和への態度を養うこと。	戦後復興と発展を内外に示すとともに、平和を愛し、国際的な日本人であることをアピールすること。
内容	①オリンピック理解 ②国際理解 ③公衆道徳高揚 ④商業道徳高揚 ⑤国土美化 ⑥健康増進	①オリンピックの起源、意義等を理解し、スポーツマンシップを養うとともにスポーツに対する興味や関心を高める。 ②日本人としての自覚と誇りを身につけさせるとともに国際理解につとめ、国際親善につくす心情を養う。 ③開催国の一員として社会の相互連帯の関係を認識しお互いに助け合い、意義のある行為をする習慣をつけさせるとともに、公共心、公德心を養う。	○オリンピック競技会やオリンピック・ムーブメントが紹介されたフィルムやスライドを利用した議論、ディスカッション、共同研究や展示作成などを奨励。 ○オリンピックへの関心を高め、理解を深めるとともに、多くの外国人の来訪に対して、日本人として彼らを受け入れるための基本的な態度や知識を身に付けることを目指した。 ①マナー教育 ・日本人の品位の向上 ・外国人客に親切に接すること ・ユーモアを解する気持ちのゆとりを持つこと

「学校におけるオリンピック国民運動の取り扱いについて」の目的や内容にそって、当時の千代田区の小学校では、社会科（ゆうびんきよくの人の単元 小2、世界平和についての学習 小6）や体育（高学年）、道徳（低学年）、学校行事などでオリンピックの学習が行われていたが、単一教科のものであった。

#### (2) オリンピック・パラリンピック教育推進校の取組

2020年の東京大会へ向けて東京都では、都内すべての公立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を対象としてオリ・パラ教育を推進している。推進校では、オリ・パラ教育を健康教育やキャリア教育と関連させたり、既存の単元を活用したりしながら特色ある取り組みをしている。中央区立H小学校では、オリ・パラ教育を6つの教育（国際教育、人権教育、キャリア教育、福祉教育、健康教育）と教科等（英語活動、道徳、総合的な学習の時間、体育）を関連させた取り組みを試みている。

そこで、本研究では、目指すべき「平和的・民主的な態度」を育成するオリ・パラ教育を教科横断的な授業として構想し、実践することとする。

## II 主題の意味

### 1 平和的・民主的な態度とは

本研究では、平和的・民主的な態度が高まった児童の具体的な姿を次の4つとしてとらえる。

- 相手を思いやることができる児童
- 相手と協力できる児童
- 勝敗に関係なく相手を称賛できる児童
- 公正・公平な判断ができる児童

### 2 オリンピック・パラリンピック教育とは

「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて」の最終報告には、オリ・パラ教育の目的を以下のよう

に記している。

- スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・向上
- 障がい者を含めた多くの国民の幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツの参画（「する」、「みる」、「支える」、「調べる」、「つくる」）の定着・拡大
- 児童生徒をはじめとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成を推進することである。

そこで、本研究では

オリンピック・パラリンピックを通じて、スポーツの意義や価値等に対する理解を深め、実践しようとする態度を育てる教育である。

と定義づける。

## III 研究の目標

オリンピック・パラリンピック教育において、「オリ・パラを通じた学び」の内容を工夫して、課題解決型の教科横断的な単元構成と「する」「支える」の立場に分ける工夫をした学習を通して、平和的・民主的な態度を育てるオリンピック・パラリンピック教育の在り方を究明する。

## IV 研究の仮説

オリンピック・パラリンピック教育において、「オリ・パラを通じた学び」の内容を工夫して、課題解決型の教科横断的な単元構成と「する」「支える」の立場に分ける工夫をした学習活動を行えば、平和的・民主的な態度が高まった児童が育つであろう。

## V 研究の構想

### 1 オリンピック・パラリンピック教育における実践授業の手だて

A：単元構成の工夫

課題解決型の教科横断的な単元構成にすること。

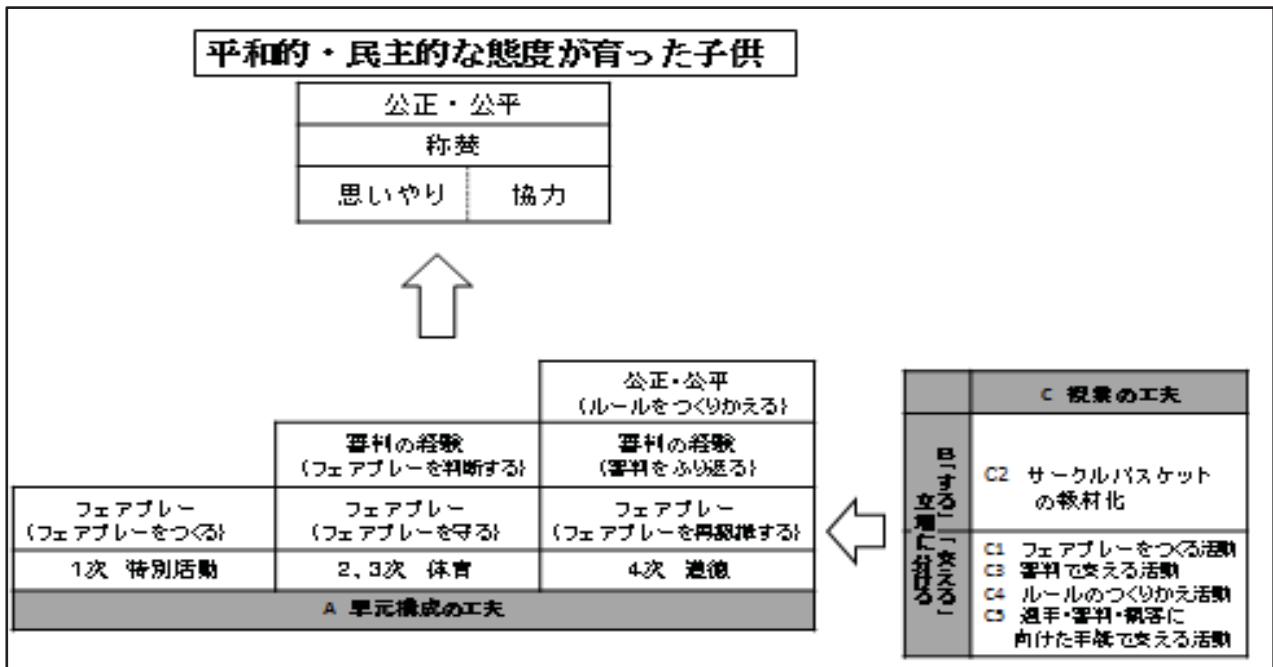
B：「する」・「支える」立場に分ける

学習活動を「する」・「支える」立場に分けること。

C：授業の工夫

「する」・「支える」にそって行われる活動や教材化を明確にすること。

### 2 研究構想図



## VI 検証授業に向けての構想

### 1 ねらい

仮説に基づく実践授業により、資料を収集及び分析を行い、仮説検証する。

### 2 対象

H 大学教育学部附属小学校 第6学年1クラス 27名 (男子14名 女子13名)

### 3 期間

平成28年5月24日(火)～6月3日(金)

### 4 方法

研究仮説を検証するために、事前・事後のアンケート調査と4時間の授業(導入段階1時間、展開段階2時間、まとめ段階1時間)を実施し、それぞれの時間について資料を収集する。

#### 【方法】

- 学習の様子を観察(ビデオ、写真)
- 学習ノートの記述
- 自己評価
- 児童の感想
- 事前・事中・事後アンケート調査比較



## Ⅶ 授業の実際

### 1 オリンピック・パラリンピック教育プログラム構築の考え方

本研究では課題解決型の教科横断的なプログラムを作成し、3つの手だてを取った。手だてAは単元構成に関わる手だて、手だてBは児童に「する」・「支える」の立場を明確にもたせるための手だて、手だてCは各授業でBを具現化するための手だてである。(図1参照)

	導入段階 【意識づけの場】	展開段階 【実践の場】		まとめ段階 【振り返り・深化させる場】
教科等	①特別活動(学級活動)	②体育科 (ボール運動)	③体育科 (ボール運動)	④道徳(公正・公平)
手だて	A 単元構成の工夫			
	B 「する」・「支える」			
	C 授業の工夫	C 授業の工夫		C 授業の工夫

図1：教科等と各手だての関係

#### 手だてA 単元構成の工夫

課題解決的な学習となるように3つの段階(導入段階【意識づけの場】、展開段階【実践の場】、まとめ段階【振り返り・深化させる場】)を設定した。それぞれの段階でのねらいに応じて、教科横断的に学習できるように体育を要として特別活動と道徳を取り入れ3つの教科・領域から構成した。

段階	導入段階 【意識づけの場】	展開段階 【実践の場】		まとめ段階 【振り返り・深化させる場】
教科等	①特別活動(学級活動)	②体育科(ボール運動)	③体育科(ボール運動)	④道徳(公正・公平)
ねらい	○「フェアプレー」とはどのようなものか考えることができる。	○「フェアプレー」(ルール・マナー)を守って、ゲームを行う。	○審判で「フェアプレー」を支え、自分のプレーに生かしながらゲームを行う。	○資料を読んで、友達との利害関係にとらわれない態度を考え、スポーツを公正・公平にしたり支えたりする実践意欲を培う。

図2：課題解決の段階と単元構成

#### 手だてB 「する」・「支える」

スポーツの多様な関わりのなかから「する」・「支える」に焦点をあて、授業を展開した。「する」と「支える」を表3のように分類し、体育のゲームの場だけではなく、授業や単元を通して「支える」活動を行うことで価値と実践を往還しながら学習することができるようにした。「支える」については審判でゲームを支えることの他に、

表2：「する」「支える」の分類

応援で支える、評価で支えるとした。評価で支えるとは、友人の動きやプレーを見て、アドバイスしたり、グループで話し合いをしたりすることで、その内容をお互いに生かすことである。

する	支える
①ゲームをする	①審判で支える ②応援で支える ③評価で支える ・学習に生かす ・学習活動を支える

手だてC 授業の工夫 「する」・「支える」にそって活動や教材を明確化することである。

	導入段階 【意識づけの場】	展開段階 【実践の場】		まとめ段階 【振り返り・深化の場】
	①特別活動（学級活動）	②体育科（ボール運動）	③体育科（ボール運動）	④道徳（公正・公平）
ねらい	「フェアプレー」とはどのようなものか考えることができる。	「フェアプレー」(ルール・マナー)を守って、ゲームを行う。	審判で「フェアプレー」を支え、自分のプレーに生かしながらゲームを行う。	資料を読んで友達との利害関係にとらわれない態度を考え、スポーツを公正・公平にしたり支えたりする実践意欲を培う。
する		C2 サークルバスケットの教材化 ・ゲームをする		
支える	C1 「フェアプレー」をつくる ・学習に生かす	C3 審判で支える ・審判で支える      ・応援で支える		C4 ルールのつくりかえ ・評価で支える  C5選手・観客・審判への手紙

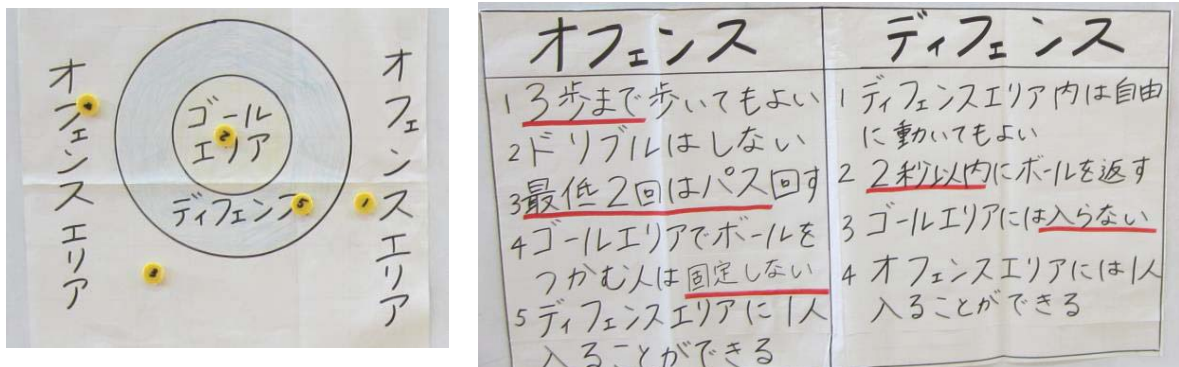
図3手だてCの具体的内容と「する」・「支える」の分類

①C1 フェアプレーをつくる活動

特別活動において、「フェアプレー」について単元を通して意識づけさせるために、児童の考えや言葉を使ってクラスオリジナルの「フェアプレー」をつくることで課題を意識づけることをねらった。

②C2 サークルバスケットの教材化

体育において、「する」・「支える」を明確にしていく過程が見えるようなボール運動として「サークルバスケットの教材化」を図った。コートはバスケットボールの3ポイントラインとフリースローラインを利用して円をかき、3ポイントラインを利用した円をディフェンスエリア、フリースローの半円を利用した円をゴールエリア、ディフェンスエリアのまわりをオフェンスエリアとした。オフェンスとディフェンスにそれぞれルールを設けた。チームは1班5～6人の男女混合班とした。



資料1:「サークルバスケッ」のコートとルール

ボール操作やボールを受けるための動きを身につけさせるために、パスとキャッチのみでゴールをねらうようにした。守備側のプレーの範囲を制限し、攻撃しやすく、得点が入りやすくなるようにをオフェンスエリアとディフェンスで動けるエリアを固定した。

③C3 審判で支える活動について

体育において、審判でフェアプレーを判断することでゲームを「支える」立場を経験することをねらった。

④C4 ルールのつくりかえ活動について

道徳において、体育で行った「サークルバスケッ」のルールをつくりかえる活動を行うことで、審判の経験を振り返って公正・公平に「する」・「支える」立場を内省化することをねらった。

⑤C5 2020年東京大会に出場するに対する手紙を書いて支える活動

道徳において、2020年の東京大会に出場する選手・審判・観客に対する手紙を書くことで、それぞれの立場に立って「公正・公平」について考えることをねらった。



## 2 単元計画


	①学級活動	②体育（する）	③体育（支える）	④道徳
ねらい	○スポーツのルールやマナーはどのようなものか考えることができる。	○「フェアプレー(ルール・マナー)」の大切さを理解し、ゲームで発揮することができる。	○審判で「フェアプレー」を支え、自分のプレーに生かしながらゲームを行うことができる。	○資料を読んで、友達との利害関係にとらわれない態度を考え、スポーツを公正・公平したり支えたりする実践意欲を培う。 2-(2)、4-(2)
導入	1 本時の学習の見通しを持つ			導入（気づく）
	(1)日常生活にはなぜルールがあるのかを考える。 クラスオリジナル「フェアプレーの精神」をつくろう。	(1)6年2組版「フェアプレーの精神」を確認する。 オリジナル「フェアプレー」を守って全力でプレーしよう。	(1)ゲームのルールの確認をする。 ゲームの審判を行い、「フェアプレー」を判断してみよう。	(1)オリンピックの審判について紹介する。 展開（考える） 2 資料を読んで考える。
展開1	2 「フェアプレー」について知る。 (1)行動としての「フェアプレー」について知る。 (2)「フェアプレー精神」について知る。	2 オリジナル「フェアプレー」に基づきサークルバスケットを行う。 (1)サークルバスケットのルールを確認する。 (2)ゲーム①を行う。 (3)ゲーム①の反省を行う。	2 ゲームの審判を行う。 (1)サークルバスケットのリーグ戦を行う。	(1)資料を読む。 (2)責任のある「しんぶん係」になったこうすけの気持ちについて考え、話し合う。 (3)話し合った考えを出し合う。 (4)「こうすけ君がいてくれてよかったよ」と言われたこうすけの気持ちについて考え、話し合う。 (5)話し合った考えを出し合う。
展開2	3 体育授業での「フェアプレー」について考える。 (1)体育授業での「フェアプレー」とはどのようなものかグループで話し合う。 (2)グループで話し合ったことを発表する。	3 ゲーム①の反省をもとにゲーム②を行う。 (1)ゲーム①の反省をもとに「フェアプレー」をより意識しながらゲーム②を行う。 (2)ゲーム②の反省を行う。 (3)ゲーム①とゲーム②を比較し改善できた点を、グループで出し合う。	(2)ゲームを2回行った感想と審判をして思ったことや考えたこと学習ノートに記入する。	展開（深める） 3 2人の気持ちを考える。 まとめ（あたまめる） 4 自分をふり返って考える。 (1)オリ・パラ教育プログラムの運動①、②を振り返る。
まとめ	4 本時のまとめをする。			(2)公正・公平に楽しくゲームができるルールになるようにグループで話し合う。 5 教師の説話を聞き学習のまとめをする。 (1)教師の説話を聞く。 (2)2020年東京オリンピック・パラリンピックの選手・審判・観客へ向けた手紙を書く。
	(1)クラスオリジナル「フェアプレー」をつくる。	(1)ゲーム①とゲーム②を比較し、改善できた意見を発表し、意見交流をする。	(1)ゲームを行ったときと審判をした時の感想をまとめ、意見交流をする。	

### 3 授業の実際

(1) 1/4 特別活動 (学級活動)

①ねらい 「フェアプレー」とはどのようなものか考えることができる。

② 展開

学習活動・内容と授業の工夫 (■)	児童の反応
<p>1 本時の学習の見通しをもつ。 (1)フェアプレーのイメージを想起する。</p> <p>2 「フェアプレー」について知る。 (1)行動としてのフェアプレーについて知る。</p>  <p>写真1: フェアプレーについて知っていることを発表する様子</p>	<p>T:今年の夏はオリンピックがありますね。4年後はどこでオリンピック・パラリンピックがありますか。 C:東京!! 見に行きたい。 T:オリンピックやスポーツって聞いて何か思いつくことはありますか。 C1:スポーツマンシップ。 T:スポーツマンシップ。ちなみにどうということ。 C1:ちゃんとルールを守る。 T:スポーツマンシップと似ているんだけど、みんなフェアプレーって聞いたことある。聞いたことある人。 C: (ほとんどの児童が手を挙げる) 聞いたことはあるけど…… T:きいたことはあるけどよく分からない。今日は皆さんとフェアプレーってなんだろうということについて勉強していきます。そして最後に、こんなものをつくってもらいます。 C:「オリジナル<b>フェアプレー</b>をつくろう」</p> <p>T:<b>フェアプレー</b>って何だろう。実は2種類あります。 1 つめは行動としてのフェアプレーというものがあります。行動としてのフェアプレーって何だろう。 C:うーん…… C1:フェアは英語で不利じゃないという意味で、プレーは演技という意味なので、不利じゃない演技ということだと思います。 T:なるほどね。言ってくれたようにフェアというのは不利じゃない、平等にという意味で、プレーというのは何かスポーツをするという感じにとらえられるけど、日常の行動とかという意味もあります。 行動としてのフェアプレーにはまず、<b>ルールを守る</b>ということがあります。みんな、運動する時って適当にやるのと全力でやるのだとどっちが楽しいですか。 C:全力 T:そうだよね。相手のためにも自分のためにも<b>全力で、不利じゃない、公正</b>にプレーするという意味もあります。みんな、試合でのプレーとか授業の発言で褒められたら嬉しいけど、「なんだそれ」っていわれたらどんな気持ちになりますか。 C2:むかつく C3:気分が悪くなる T:なんか嫌な気持ちになるよね。せっかくお互いが頑張って試合したのにとか、普段の生活でおはようってあいさつしたのに知らんぷりされたら嫌だね。行動としてのフェアプレー3 つめは勝っても負けても文句を</p>

(2)「フェアプレー精神」について知る。

3 体育授業での「フェアプレー」について考える。

(1)体育授業での「フェアプレー」とはどのようなものであるかグループで話し合う。



写真2：ルールはなぜあるのかを考える場面

言わないというか、相手に全力で試合をしてくれてありがとうという**称賛**する気持ちを持つということですよ。

T:フェアプレーは二種類あるっていったけどもう一つはフェアプレー精神です。これは、精神だからスポーツをしている時だけじゃなくてこうやって座って勉強している時や、学校に来る時とかスポーツの場面に限らず、日常生活の中でのこともはあります。友達とケンカしてバカヤローって言っちゃったけどこれってだめだよとか、**いいか悪いか判断できる気持ち**のことをいいます。精神というのは心とか気持ちという意味だよ。行動としてのフェアプレーとフェアプレー精神というのはどちらも関係していて、例えば、ルール守るという気持ちがなければルールを守るということを行動で示せないですよ。

T:皆さん、学校でどういうとき運動しますか。

C4:休み時間

C5:中休み

C:体育の時間

T:そうだね、体育の時間や休み時間に外や体育館で運動すると思うんだけど、みなさんどうか。この2つできているかなとちょっと考えてみてください。

いくら、ルールを守るとかフェアプレーって大事だと思っても負けたら悔しいし、プレーに参加できなかったら悲しい気持ちになりますよね。

T:**ルールって何のためにある**と思いますか。

C:6(小さな声で)守るため。

T:お。守るため。じゃあ、どうして守らないといけないのだろうか。

C:7守らないとけがをしたりするから。

C8:**みんなが楽しく**できるように。

C9:ルールを守らないでやったら、負けた側はルールを守らないチームに負けたと思うから、**勝っても負けても認めれる**ようにあると思います。

T:なるほど。日常生活だけではなくて体育の時でもルールを守ったり、今言ってくれたような気持ちを持ったりすることは必要なことです。そこで、体育授業でのフェアプレーってどういうものなのかなというのをグループになって話し合っていきたいと思います。

<話し合いの様子>

C1:**審判にいちゃもんをつけない**。

C2:でも、審判が間違ったら文句言ってもいいんじゃない。間違ってるんだもん。じゃあ、審判が正しい判断をしたときは文句を言わないは？

T:例えば、こういうことされたら嬉しかったとか逆に嫌だったとか、友達がずるしてゲームに勝って喜んでた時、皆さんならなんと声かけるかななどを考えて

(2)グループで考えたことを発表する。



写真3：他のグループの発表を聞いている様子



写真4：各班で考えた発表をしている様子

話し合ってみてください。

C:6班では、

**ルールを守る**、周りをよく見る、頑張っている人を**応援する**、他の人と協力する、勝敗を認める、けがした人を助ける、自分勝手な行動をしない、**みんな平等に楽しむ**、使った道具はみんなで片づける、時間を守る、負けても次頑張る、ケンカをしない、**人の気持ちを考える**、**勝っても負けても握手する**、**あきらめず最後までやりきる**、みんなの**頑張りをたたえる**、悔いなくやる、負けたら適度に悲しむ、勝ったら適度に喜ぶ

が出ました。

T:負けたら適度についてあるけどこれはどういうこと。

C10:(負けたチームが)泣いちゃったら勝ったチームもかなしくなるから。

C:5班では

みんなで協力する、**自分も相手もルールを守る**、**相手のことを思いやる**、けがをさせないとか、全力でプレーする、ケンカしない、順番を守る、負けても相手の文句を言わない、**みんなが平等**になるようにする、さわがない、失敗してもあきらめない

が出ました。

C:4班では、

ドッチボールで負けた人が勝った人の**悪口を言わない**、ドッジボールで審判が**負けと言ったら認める**、ソフトバレーボールで線を越えてしまったら**自分から申し出る**、リレーでフライングを相手がしても**せめないでまたやる**。

が出ました。

C:3班では、

周りをよく見る、負けても文句を言わない、**ルールを守る**、**審判に文句を言わない**です。

T:周りをよくみるとあるけれど、これはどういうこと。

C:ぶつかってけがをさせないように。

T:なるほど。次2班願います。

C:2班では、

先生がみていなくても**ルールを守る**、審判が正しいときは文句を言わない、頑張っている人を笑わずに**応援する**、負けた後に**グダグダ言わない**、反則したら**自分から反則しましたと言う**、**勝敗について争わない**

が出ました。

T:負けた後グダグダ言っちゃうことって……

C:(少し苦笑いしながら)あります。

C:1班では、

セルフジャッジの場合相手の判断を信じる、また、勝ちたいからと嘘のジャッジをしない、**えこひいきしない**、嫌いな人とチームになっても仲良くする、ファウルをしない、負けてしまっても**審判や相手に八つ当たりや抗議をしない**、試合時間で待機の人はおしゃべりをするのではなく**応援する**、試合が終わったらきちんと挨拶してお互いの成績をたたえ合う



#### 4 学習のまとめをする。

##### (1)オリジナル「フェアプレー」をつくる。

###### ■C1 フェアプレーをつくる活動

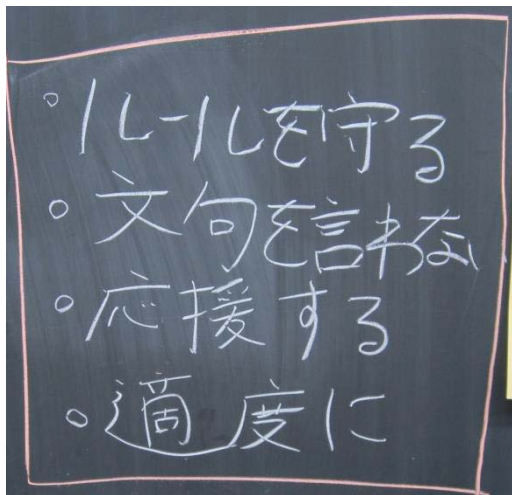


写真5：オリジナルフェアプレー

ができました。

T:6 班分の発表を聞いて、どこか共通していることありますか。

C9:**ルールを守る**ということです。

C11:頑張っている人を**応援する**。

T:そうだね。応援すると書いた班も多かったですね。

後は、勝っても負けても悪口をいわないということも多かったと思います。自分の班ではこう考えたけど、他の班の表を聞いてわかったことがあったという人。

6C:私の班では、反則したら自分から申し出るという考えがなかったのでもいいと思いました。

2C:私たちの班は、自分たちがやっている時のことだけ考えていたけど、1 班の**待機している人はおしゃべりをせずに応援する**とあって待っている人のことも書いていました。

T:応援すると書いた班は多かったですね。

1C:6 班の適度に悲しむとあって、試合が終わってからのことも感情をコントロールすることもかいてありました。

3C:僕たちの班では、**反則したら自分から言う**という考えがなかったの4 班とか6 班のを聞いてなるほどなと思いました。

6C:2 班の頑張っている人を**応援する**というのがいいなと思いました。

T:みんなの意見を聞いて、どんなことを守ったら体育を楽しくできそうですか。

C:**ルールを守る、応援する**。

T:**ルールを守る**ということ、**文句を言わない**ということほどの班にもありましたね。あとは、**応援する**もできていました。他に何か。

6C:適度（素直に）に喜ぶ、悲しむを入れたい

T:皆さんどう。4 つでました。それではこの4 つを守って木曜日の体育をやってみたいと思います。

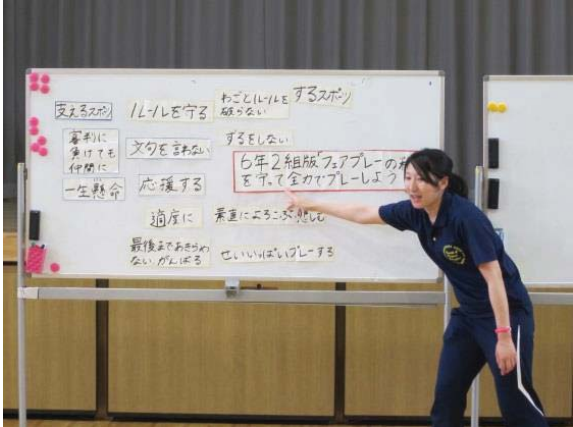
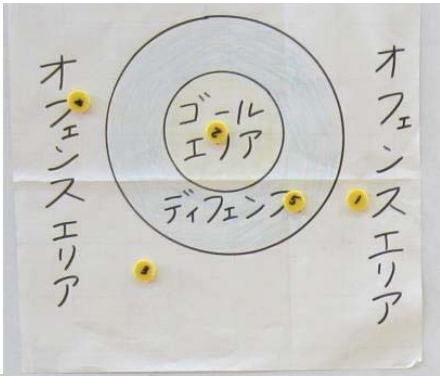


(2) 2/4 体育

①ねらい 「フェアプレー」(ルール・マナー)を守ってゲームを行う。

(意欲・関心・態度)

②展開

学習活動・内容と授業の工夫 (■)	児童の反応												
<p>1 本時の学習の見通しをもつ (1)オリジナル「フェアプレー」を確認する。</p>  <p>写真6：前時の復習と本時の流れの確認する場面</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>オリジナル「フェアプレー」を守って全力でプレーしよう。</p> </div> <p>2「オリジナルフェアプレー」に基づき、サークルバスケットを行う。 (1)サークルバスケットのルールを確認する。 ■C2 サークルバスケットの教材化</p>  <table border="1" data-bbox="172 1585 772 1899"> <thead> <tr> <th>オフェンス</th> <th>ディフェンス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 <u>3歩まで</u>歩いてよい</td> <td>1 ディフェンスエリア内は自由に動いてもよい</td> </tr> <tr> <td>2 ドリブルはしない</td> <td>2 <u>2秒以内</u>にボールを返す</td> </tr> <tr> <td>3 <u>最低2回</u>はパス回す</td> <td>3 <u>ゴールエリアには入らない</u></td> </tr> <tr> <td>4 ゴールエリアでボールをつかむ人は<u>固定しない</u></td> <td>4 オフェンスエリアには1人入ることができる</td> </tr> <tr> <td>5 ディフェンスエリアに1人入ることができる</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>写真7：「サークルバスケット」のコートとルールの掲示</p>	オフェンス	ディフェンス	1 <u>3歩まで</u> 歩いてよい	1 ディフェンスエリア内は自由に動いてもよい	2 ドリブルはしない	2 <u>2秒以内</u> にボールを返す	3 <u>最低2回</u> はパス回す	3 <u>ゴールエリアには入らない</u>	4 ゴールエリアでボールをつかむ人は <u>固定しない</u>	4 オフェンスエリアには1人入ることができる	5 ディフェンスエリアに1人入ることができる		<p>T:オリジナル「フェアプレー」の精神を色分けしてきました。<b>ルールを守る</b>とか、みんなの感想をみて先生がぜひ、入れたいなと言った、<b>最後まであきらめないで精一杯運動する(黄色)</b>というのみなさんが運動している中でのことですよね。この黄色は実は「<b>するスポーツ</b>」というふうにいいます。では、青い方。これ何だろうね。</p> <p>C:普段の生活</p> <p>T:おー、なるほど。<b>試合してる時どんな人がいる。</b></p> <p>C:<b>審判、相手、仲間</b></p> <p>T:そうそう。この青色は「<b>支えるスポーツ</b>」といっています。今日は皆さんに「<b>するスポーツ</b>」「<b>支えるスポーツ</b>」を体験してもらいたいと思います。</p> <p>T:今日はサークルバスケットというゲームをやりたいと思います。ルールを説明します。コートはバスケットボールの3ポイントのラインをつかいます。ディフェンスの人は丸の中を動きます。オフェンスの人は外側を動きます。真ん中の小さい丸がゴールエリアになります。オフェンスの人はゴールエリアにボールを入れたら得点です。オフェンスの人はボールを持ったら今日は3歩まで動いてもいいです。でも、ドリブルはしないでください。パスをもらったらずぐにゴールするのではなくて、2回はまわしてください。ディフェンスの人はディフェンスエリアの中で動いてもらいます。オフェンスの人がゴールエリアにボールを投げるのを防ぎます。オフェンスの人のボールを防いだら2秒以内にボールをオフェンスの人に返してください。ディフェンスのチームは一人だけオフェンスエリアに入ってボールを防ぐことができます。試合時間は8分です。4分経ったらディフェンスとオフェンスが逆転します。</p> <p>C:えー。あー。なるほど。じゃあ、後の方が有利ってこと。</p> <p>T:それは、みんなの作戦次第かな。ゲームは全部で2回します。ゲーム①のオフェンスは、1班、3班、5班です。ディフェンスが2班、4班、6班の人。それ</p>
オフェンス	ディフェンス												
1 <u>3歩まで</u> 歩いてよい	1 ディフェンスエリア内は自由に動いてもよい												
2 ドリブルはしない	2 <u>2秒以内</u> にボールを返す												
3 <u>最低2回</u> はパス回す	3 <u>ゴールエリアには入らない</u>												
4 ゴールエリアでボールをつかむ人は <u>固定しない</u>	4 オフェンスエリアには1人入ることができる												
5 ディフェンスエリアに1人入ることができる													

で4分経ったらオフェンスとディフェンスを交換してゲーム②をやります。**ルールを守る**ことについて、**全力でやっつけようがなくルールを破ってしまったのはわざとルールを破る**ことにはならないよね。

C:(うなずく)

T:そこは注意してください。今日はみんな、自分で自分のことを審判してもらいます。

C:え、審判いないの。

T:そう、**審判は自分自身**です。学活の時、セルフジャッジという言葉がでていました。他にも自分にも相手にも正直にとか反則したら自分から言うという言葉がでていたので、実際にできるかなというのをやってみます。

T:オフェンスとディフェンスの人数が違うけれど、作戦を工夫してやってみてください。

C1:この丸の中はディフェンスが入れないんだよね。

C2:オフェンスの範囲はここまでだね。

T:ゲーム①の反省を学習ノートに書いてください。

C:ルールの確認をしてもいいですか。

(2)ゲーム①を行う。



写真8:セルフジャッジをしている様子

(3)ゲーム①の反省を行う。

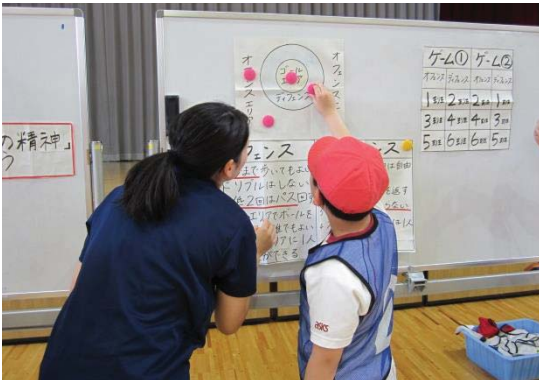


写真9:ルールを再確認する様子

3 ゲーム①の反省をもとにゲーム②を行う。

(1)ゲーム①の反省をもとに「フェアプレー」をより意識しながらゲーム②を行う。

4 まとめ

(1) ゲーム①とゲーム②を比較し、改善できた点を発表し、意見交流をする。

(3) 3/4 体育

①ねらい 審判で「フェアプレー」を支え、自分のプレーに生かしながらゲームを行うことができる。

(意欲・関心・態度)

②展開

学習活動・内容と授業の工夫 (■)	児童の反応
<p>1 本時の学習の見通しをもつ</p> <p>(1)前時の学習を想起する。</p> <div data-bbox="188 461 778 539" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ゲームの審判を行い「フェアプレー」を判断してみよう。</p> </div>  <p>写真 10: 「するスポーツ」「支えるスポーツ」を確認する場面</p> <p>(2) ゲームのルールを再確認する。</p>	<p>T:皆さんには昨日、サークルバスケットで審判とプレイヤーどっちもやってもらいました。どうですか、自分自身の審判、うまくできましたか。</p> <p>C:できた。</p> <p>T:おー、できた人もいますね。でも、ずるしたという声も聞こえてきていました。今日は、審判をする班とゲームをする班に分かれてやります。他の班の審判、きちんとできるかなというのをやってみたいと思います。</p> <p>T:スポーツのかかわり 2 種類あるよって言ったんだけど、何があったか覚えてる。</p> <p>C:するスポーツと、なんだっけな……<b>支える</b>スポーツ。</p> <p>T:そうだね。するスポーツと<b>支える</b>スポーツがありました。するスポーツは…</p> <p>C:ルールみたいなもの。</p> <p>T:みんなで「フェアプレー」つくった中の<b>ルールを守る、わざと破らないとかずるしない</b>とか。</p> <p>C:応援する。</p> <p>T:応援するってどっちに入るんだっけ。覚えてる。</p> <p>C:<b>支える</b>スポーツ。</p> <p>T:どうやって応援するんだっけ。</p> <p>C:がんばれーって。</p> <p>T:そうだね。がんばれって<b>一生懸命応援する</b>んですね。昨日は応援する場面が少なかったんだけど、今日は審判してもらうので、たくさんそういう場面があればいいと思います。</p> <p>T:サークルバスケットのルールをもう一度確認します。まず、ゴールエリアに入る人はいつも同じ人ではないようにして、なるべく同じ人がボールを取らないようにしてください。昨日は人数が 5 人対 4 人でやって大変だったのなと思ったので今日は変えました。まず、A コート。みなさんから見て左側は 4 人班。1 班 3 班 5 班が今日は A コートでゲームをします。B コートは 5 人班の 2 班 4 班 6 班の人がゲームをします。これが今日の対戦表です。順番は表のとおりになります。ゲームは 2 回します。審判の人はゲームの邪魔にならない場所に立って、ゲームの<b>ルール守っているかな、「フェアプレー」守っているかな</b>というのを審判してください。今日はディフェンスとオ</p>



## 2 ゲームの審判を行う。

### (1) サークルバスケットのリーグ戦を行う。

#### ■ C3 審判で支える活動



写真 11：審判をしている様子

### (2) ゲームを 2 回行った感想と審判をして思ったことや考えたことを学習ノートに記入する。



写真 12：審判のチームとゲームをしたチームでの評価の様子

## 3 本時のまとめを行う。



写真 13：まとめの様子

フェンスの交換が 3 分 30 秒交代で行います。試合時間は 7 分になります。審判の人は帽子を脱いでください。オフェンスの人は帽子を赤にしてください。

T: 審判やってみてみなさんどうでしたか。

C: 難しい、意味不明。


C: 審判がずるしている

T: 昨日と比べると、審判やるの難しかったよね。もしかしたら、いやな気持ちになった人もいるかもしれません。だから、この後どういう行動をすればいいのかなというのを考えて行動してほしいなと思います。

(4) 4/4 道徳

①ねらい 資料を読んで、友達との利害関係にとらわれない態度を考え、スポーツを公正・公平にしたり支えたりする実践意欲を培う。

②展開

学習活動・内容と授業の工夫 (■)	児童の反応
<p>1 本時の学習の見通しをもつ (1)オリンピックの審判について紹介する。</p>  <p>写真14:「する人」「支える人」を知る場面</p> <p>2 展開〈考える〉 (1)資料を読む。 (2)責任のある審判係になったこうすけの気持ちについて考え、話し合う。 (3)話し合った考えを出し合う。</p>	<p>T:皆さん、これを見てください。何でしょうか。 C:卓球! T:これは、ロンドンパラリンピックの車いす卓球の写真です。この人は何してる人。 C:打ってる、選手。 T:では、このスーツを着ている人は。 C:(1/3程度の児童が)審判 T:おー、審判って何する人だろう。そうだね、点数数えたりルールをジャッジする人ですね。そんなオリンピック・パラリンピック、大きな大会で審判いなかったら… C:不正が出る。 C:もめごとがおこるかもしれない。 T:そうだね、審判がいなかったらプレイヤーが集中してプレーできなさそうだよ。 C:(うなづく) T:皆さん、この前の体育で審判もする人もやりました。審判するのって大変だなと思ったと思います。この写真やオリンピックみたいな行事、なんか学校で似ているものないかな。 C:運動会。 T:おー、運動会。運動会もする人も審判いますね。今日の学習は運動会のお話から審判についてもう一度みなさんに考えてもらいたいと思います。</p> <p>T:今から先生が読むので皆さんは文章を目で追って聞いてください。 T:こうすけくん、審判係になってちゃんとやらないかと張り切っていましたね。でも、だいき君が「ほとんど同時だったし、白が負けてるからいいんじゃない」という発言をしましたね。「白を1位にすれば…」というだいきの言葉を聞いたとき、こうすけ君どう思ったかな。 C1:なんでそんなことで決めつけるんだろうって思ったと思う。 C2:嘘をついたらダメだ。 C3:こうすけは、赤組の子がゴールテープを先に切るのを見てたけど、だいきが白を1位にすれば盛りあがるみたいな理由でほんとは赤組が勝ったのに白を1位にしたらどっちも頑張ったけど、頑張った最初に</p>



<p>(4)「こうすけ君がいてくれてよかったよ。」と言われたこうすけの気持ちを考える。</p> <p>(5)話し合った考えを出し合う。</p> <p>3 2人の気持ちを考える。</p>	<p>ゴールテープを切った赤組の子がかわいそう。</p> <p>C4:その赤組の子が、自分でゴールテープ切ったってわかっていたら、(白が1位だと言ったら)やる気なくしちゃうかもしれない。</p> <p>T:一生懸命走ってきたのにね。白を1位にすればいいんじゃないかと言ったとき、こうすけ以外の人はいいんじゃないかと賛成していましたよね。でもこうすけ君、勇気を振り絞って伊藤先生に何と言ったか覚えていますか。</p> <p>C:赤組が最初。</p> <p>T:赤組の子が最初だよって言ったらだいきはえっと不満そうな顔をしましたね。でも、だいきは最後にこうすけに何と言ったかな。さっきまで不満そうのだいき君がこの発言をしたとき、こうすけ君はどう思ったかな。</p> <p>C5:組関係なく、<b>嘘をつかずに判断</b>できてよかったな。</p> <p>C6:正しい判断をしないと、やる気をなくしてしまうから<b>正しい判断</b>をしてよかった。</p> <p>T:お話はここで終わってますが、この後こうすけ君とだいき君は運動会をどう過ごしたか。どう過ごそうと考えたか。また、話し合ってみてください</p> <p>C7:だいき君と一緒に運動会を盛り上げたり、<b>楽しんで</b>いこうと思った。</p> <p>T:うん、最後こうすけもだいきも笑顔になっていますね。楽しもう、がんばろう、一緒に盛り上げていこうという気持ちになったのかなと。他に。</p> <p>C8:審判で嘘をつくという気まずい気持ちではなく、<b>さっぱりとした気持</b>。</p> <p>T:おー、さっぱりとした気持ち。二人とも笑顔でさっぱりとした気持になって、何かがんばれそうだね。</p> <p>C2:さっきは負けていたけど、<b>逆転してがんばろう</b>と思った。</p> <p>C4:逆転して<b>ルールを守って勝ちたい</b>と思った。</p> <p>T:例えば、<b>ルールを守る</b>とか、<b>きちんと審判しよう</b>という気持ち、なんていうかな。</p> <p>C:うーん</p> <p>T:きちんとしようとか、正確に判断しようとか、後はずるをしないというのも出ました。</p> <p>C1:<b>公平な心</b>。</p> <p>T:おー、公平な心。皆さん、どうですか。<b>正しく判断する心、公平・公正な心</b>。こうすけ君とだいき君、審判してるけど競技にも出ているよね。この前の体育でも行ったんだけどこういうのってスポーツの何というだっけ。</p> <p>C:<b>する、支える</b>。</p> <p>T:<b>するスポーツも支える</b>スポーツ、2人はどちらもやっていますね。<b>公正・公平に判断しよう</b>と考えたとういうことですね。あれ、何かこんな経験を皆さんしたことはありませんか。</p>
--	---

#### 4 自分をふり返って考える。

##### (1) 体育授業をふり返る。

(2) 公正・公平に楽しくゲームができるルールになるようにグループで話し合う。(12分)

■C4 ルールのつくりかえ活動(審判もプレイヤーも公正・公平という視点)

T:先生とやったこの前の体育、なにやったか覚えてる。

C:サークルバスケット

T:皆さん、サークルバスケット**です**人も**審判で支える**人もやりましたね。こうすけ君みたいに**公正**な目で審判できたかな、ちょっと思い出してみ。隣の人、周りの人に自分のことを教えてみてください。

T:自分はこうだったよと発表してくれる人。

C4:相手のチームと自分たちが思っているルールに食い違いがあつて、どっちがどうなのかわからなくなったりして、いろいろあつて、点数が高かったのに低くしちゃったりして、**ルールを破っていた**。

T:ルール破っちゃっていたのかもしれない。例えば、ルールのここがわからなくてもめたよとか。

C1:2秒で返すというルールがオフェンスとディフェンスでごちゃまぜになっていたからそういうことがないように確認を増やせばいいと思う。

T:ほー、確認を増やせばいいんじゃないかと。できたよという人いる。

C:うーん

T:うーん。みんな今、うーんとなっているけど何でうーんとなっているの。

C:まだ、ちゃんとルールを把握していない。

T:なるほど。ルールを把握したらきちんとできそう。

C:はい。

T:ルールちょっとあいまいなところがあったかもしれませんが。先生のところに、ルールこれでいいのとかあっちの班がずるしてると言いに来てくれた人もいました。一生懸命やってると、**ルール守らないとだめだ**と分かっているんだけど、**ずるしちゃう**ことも

C:ある。

T:こうやって文字だけでみると何となくけどちゃんと試合できそうだなと思うんだけど、やってみると

C:**難しい、わからない**、勝手にルール変えられたら、相手の人に合わせちゃう。

T:ちょっと嫌な気持ちになった人もいるかもしれませんが。そこで、今日は**公正・公平**にとかルール食い違いとかもっと確認した方がいいんじゃないかというのをを出してくれたので実際にルール、自分たちでかえてみようと思います。オフェンスとディフェンスに分かれて考えてもらいます。前に座ってる1班、3班、5班はオフェンスのルール5個あるうちのどれ1つ選んでください。2班、4班、6班はディフェンスのルール4個から1つ選んで書いてください。その時に、どうやったら**審判もプレイヤーも気持ちよく公正・公平に楽しくできるのか**を考えて下さい。

T:みんなする人のことも支える人のことも真剣に考え

## 5 学習のまとめをする

(1)2020年東京都の書く。

■C5 選手・審判・観客に向けた手紙で支える活動

表2 オリンピックに出る人への手紙の選手・審判・観客の人数

選手	審判	観客
11人	10人	4人

(2)教師の説話を聞く。

て、**ルールを守れるように**考えてくれました。先生も気が付かないことがたくさんあって、このルールでやったらもっと楽しくなるんじゃないかなと思いました。

T:皆さんに**公正・公平**で楽しくの視点で2020年のオリンピックに出る人にお手紙書いてほしいです。こういう気持ちでやってほしい、という思いを自分が書きたいなという人のところに丸をして書いてください。サークルバスケットの審判をした経験や自分の経験もいれて書いてみてください。

T:書いた手紙を発表してくれる人いますか。

C:**他の選手などにも楽しんでもらえるように**相手をリスペクトして、負けても楽しかったなどの気持ちになれるようなプレイをしてほしいです。

T:リスペクトする。なるほど、ありがとうございます。次、審判に書いたよという人。

C:観客は選手の熱戦をたのしみにしているし、選手も勝ちたいと思っています。どちらの選手がいいからといってひいきにしないで**正しく判断**してほしいと思います。

T:おー、**正しく判断**する。ありがとうございます。観客に書いたという人。2人かな。(挙げるか迷っている児童が隣の席の児童に促され手を挙げる。)

C:選手の人に**文句**とか、**負けろー**とか言わないことが大事だと思う。

T:**ずるしない**とか、**楽しく**とか。皆さん、**する**スポーツ、**支える**スポーツって分けて考えたけど、するスポーツだけだったらずるしちゃうかもしれない。支えるスポーツだけだったら……

C4:やる意味ない

C:シーンとしちゃう

T:**公正・公平**という視点は**する**スポーツにも**支える**スポーツにもあてはまりますよね。プレイヤーも審判も、応援で支える人もみんなこういう気持ちでいると体育とか日常生活でも気持ちよく生活できるんじゃないかと思います。スポーツするときだけでなく、**する・支える**は大事なことだと思います。お手紙にも書いていました。でも、こういうことって思っているもなかなか行動できないですよね。これを学習した皆さんなら協力してこういうことをどんどん実践してほしいと思います。

## Ⅷ 結果及び考察

### 1 平和的・民主的な態度は育ったのか

(1) アンケート結果の推移から

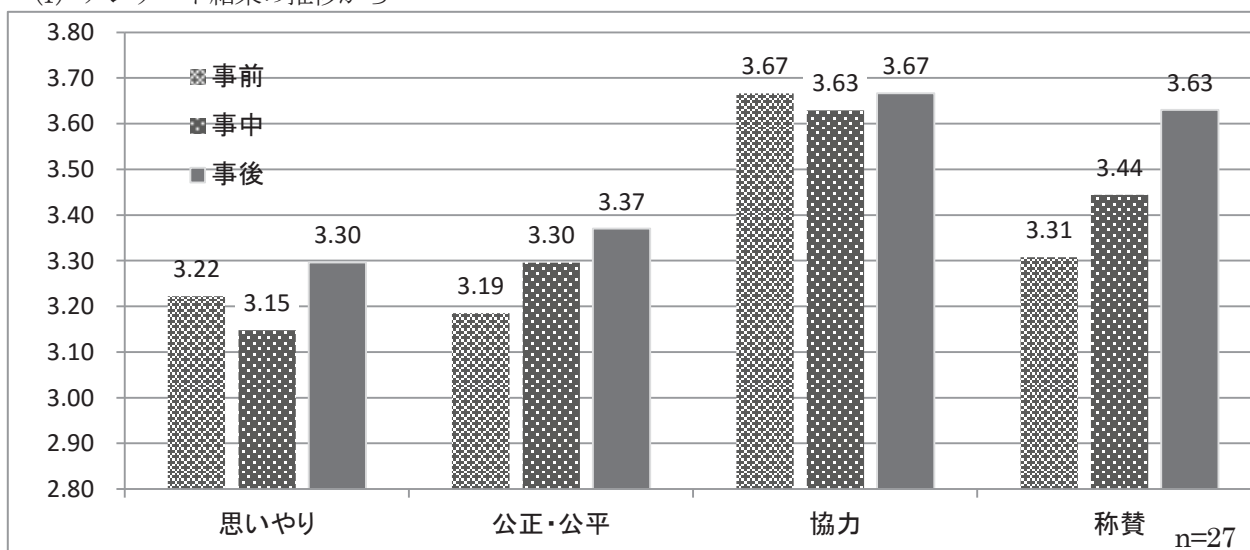


図4：事前・事中・事後アンケート結果

平和的・民主的な態度である「思いやり、協力、称賛、公正・公平」の4つの項目を授業実践の事前・事中・事後にアンケートを実施し、その結果を図4にまとめた。事後では数値が高まったが、カイ二乗検定を行った結果、有意差は見られなかった。公正・公平と称賛の項目では、授業ごとの高まりがみられた。思いやりと協力の項目では、体育授業後に数値が下がっているが、事後は高まりがみられた。

#### ①公正・公平と称賛の項目

学級でのオリジナル「フェアプレー」をつくる活動や体育での「フェアプレー」を守ってゲームをする、審判で支える活動、道徳で体育の授業で審判を行った経験を踏まえ、公正・公平に判断することの難しさや大切さを学んだうえで、相手を称賛することの価値に気付くことができたと考えられる。

事前アンケートで公正・公平の項目に4(とても)と回答した児童が8人であったのに対して、事中は10人、事後は18人増加していた。4と答えた児童の増加に伴い、3(まあ)と回答する児童が減少していることがわかった。また、事前では、2(あまり)と回答した児童が事中では2人、事後では1人になっていた。事後で2と回答した児童は事前、事中也2と回答していた。

称賛の項目については、事前で4と回答した児童が12人であったのに対して事中は13人、事後は18人に増加していた。4と答えた児童の増加に伴い、事前で3や2と回答した児童が減少している。特に、事前で2と回答した児童が4人いたが、事中和事後で1人に減少していた。

#### ②思いやりと協力の項目

体育終了後(事中)に下がった背景として体育で審判を行った際に自分と友達との判断に折り合いをつけることができなかつたためと考えられる。しかし、単元の最後に道徳を行い、ルールをつくりかえる活動や審判や今までの自分の経験を踏まえ、東京大会に出場する選手・審判・観客に向けた手紙を書く活動を行い、自分の考えを整理することにより、思いやりや協力することが「フェアプレー」や「する」・「支える」につながると理解したため数値が上がったと考えられる。事前アンケートで思いやりの項目に4と回答した児童は7人であったのに対して事中は4人に減少し事後は8人に増加している。事途中で4と回答した児童は事前・事後ともに4と回答していた。また、事後で新たに4と回答した児童は単元を通して4と回答していた児童と同じ班であったため、班の中での話し合いや行動が影響したことも考えられる。事前で3と回答した児童は19人、事中は23人、事後は19人であった。この項目は、事後に2と回答した児童がいなかった。

協力の項目については、事前で4と回答した児童が19人、事中は18人、事後は20人であった。事前で3と回答した児童は7人であったのに対して、事中は8人、事後は5人であった。



## (2) 児童の様相の変化から

### 検証の視点1:「フェアプレーを意識化・細分化することができたか」

「フェアプレー」という言葉は知っている、聞いたことがあるという児童がほとんどであったがその意味について知っている児童が少ないことが分かった。そこで、「フェアプレー」の価値を知り、体育や運動をする時だけでなく日常生活でも大切にしなければならないことを学習した。「フェアプレー」をより実感をとまなびて理解し、実践できるように体育での「フェアプレー」について班で話し合い、クラスオリジナル「フェアプレー」を作成して単元を通して意識できるようにした。表3は、各班で話し合った体育での「フェアプレー」である。各班の話し合いでは、「ルールを守る」、「応援する」、「文句を言わない（審判や相手チーム、自チームの仲間）」、「最後まであきらめない、がんばる」ということについて話し合っている班が多かった。その中で、負けたチームが泣くと勝ったチームも悲しくなるからという理由で「勝ったら適度に喜ぶ・負けたら適度に悲しむ」という意見が出た。そこから、「適度に」ではなく「素直に」と言葉を変えクラスオリジナル「フェアプレー」にいれることとした。このように、

表3: 体育でのフェアプレー

今までの経験を基にして班での話し合いと全体での話し合い活動から児童思いが反映されたオリジナル「フェアプレー」をつくることができたと考えられる。学習ノートの記述からは、「フェアプレーを守ると楽しくできる」、相手を「信頼して思いやる」こと、「協力する」ことが大切であるということがわかったことが記されていた。体育授業について、次の体育では「みんなで決めたフェアプレーを守ってやりたい」などの記述がみられ「フェアプレー」を意識化・細分化できたと考えられる。

オリジナル「フェアプレー」	具体的な行動
ルールを守る	ずるをしない わざとルールを破らない
文句を言わない	審判に文句を言わない 負けても相手に文句を言わない 仲間に文句を言わない
応援する	一生懸命応援する
適度に	素直に喜ぶ・悲しむ
最後まであきらめない、頑張る	精一杯プレーする

### 検証の視点2:「フェアプレーを守ることができたか」

2時間目の体育の審判はセルフジャッジで行った。授業のめあてを「オリジナルフェアプレーを守って全力でプレーする」こととしたので、ゲームが終わるごとに学習ノートやホワイトボードに掲示してあるルールを確認したり、チームの仲間と確認し合う姿がみられた。ゲームが始まる前には、対戦するチームで「よろしくね」と自然と握手する場面(写真15)がみられ、「フェアプレー」を守ってゲームをしようとする意志が感じられた。授業終了後の学習ノートには、「ルールを守りながらできた」や「せいはいばいプレーできた」という感想があった。また、「少し文句をいってしまった」、「素直によるこぶ・悲しむができなかった」など、反省を記述している児童もいた。



写真15: 試合前に握手をする様子

### 検証の視点3:「審判で支える立場からフェアプレーを判断することができたか」

3時間目はゲームをする班と審判をする班に分かれてサークルバスケットのリーグ戦を行った。ゲーム中は試合をしているチームが審判をしているチームの判断に対して、「なんで自分たちのチームだけそれをファウルにするの」、「ちゃんとやっていたよ」と言う場面や審判をしているチームが「さっきの3歩以上歩いたよね」と審判に苦戦している姿が多く見られた。授業終了後の学習ノートには審判を行ってみて、「ずるを見分けるのは大変だった」、「審判はむずかしい」ということや「文句を言われたりして審判の大変さや、責任の重大さに気付いた」、「みんなが意外とずるしていた」ことが書かれていた。また、「セルフジャッジよりもむずかしい」、「自分でもわからないうちにルールを破っていることがわかった」と前回と比較していた児童もいた。ゲーム中に審判とプレイヤーで折り合いをつけることができずにいた班の児童は「審判の言うことは絶対だけど、勝手にルールをつくって点数を減らすのはおかしい」と思ったことや「審判がかってにルールをつくった」ことが



書かれていた。このことから、審判で支える立場からフェアプレーを判断することができたと考えられる。

**検証の視点4：「公正・公平の視点でルールをつくりかえることができたか」**

ルールのつくりかえ活動では、サークルバスケットの経験からプレイヤーも審判も公正・公平により楽しくゲームが行えるようにオフェンスのルールについて話し合う班（1、3、5班）と、ディフェンスのルールについて話す班（2、4、6班）に分かれて話し合いを行った。表4がつくりかえたルールとその内容である。

表4：ルールつくりかえの内容

オフェンス	ルール1 ボールを持って3歩まで歩いてもよい → ボールを持って5歩まで歩いてよい
	理由：3歩だと少なすぎて何歩歩いたかわからなくなるから。3歩だと審判もわかりにくいと思うから。
	ルール3 最低2回パスを回す → パスは最低1回
	理由：審判によって2回パスをしたのに、1回しかしてないと言ったりするのをなくすため。プレーする人たちのことを考えてパスは最低1回にしたほうがいいと思う。
ディフェンス	ルール1 ディフェンスエリアは自由に動いてもよい → 一人につき2人までしかついていけない
	理由：みんなで守ったらシュートができなくてはしやうかもしれないから。全員でいくとパスもできなくなって、相手が嫌な気持ちになるかもしれないから。全員でいけばエリアに空きができるけどゴールしづらいから。
	ルール4 オフェンスエリアに一人入ることができる →オフェンスエリアに一人はいてもいいけど、(特定の人)一人ねらいはしない。
	理由：ボールを持ってない人がでてきてみんなが楽しめないから。

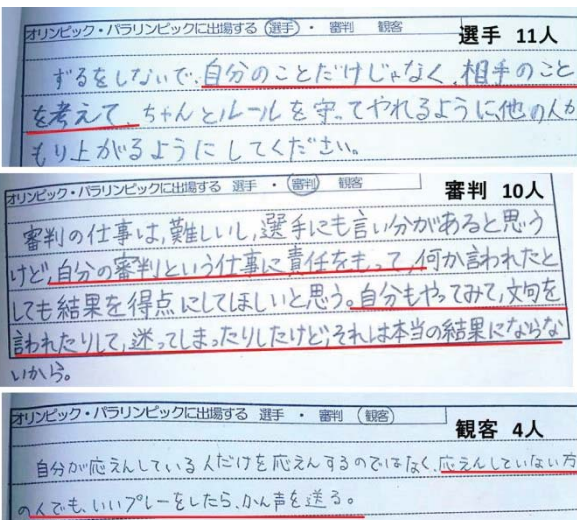
審判をして迷ってしまったことや、プレーしているときにわかりにくかったことはどんな事であったかを思い出しなが話し合いが行われていた。公正・公平の視点をもつことの難しさを実感した経験から、プレイヤーと審判どちらのことも考えながらルールのつくりかえができたと考えられる。

**検証の視点5：「公正・公平の視点から選手・審判・観客に向けた手紙を書くことができたか」**

資料4は第4時の道徳で2020年東京大会に出場する選手・審判・観客に向けた手紙を書く活動を行った際の内容である。右上に記載されている人数はそれぞれ何人の人が書いたのか示したものである。また、表5は手紙の内容の詳細である。選手に向けて書く児童がほとんどであると予想したが、選手と審判がほぼ同数であった。選手に対しては「ルールを守る」「勝敗を認める」ことについての記述が多かった。審判に対しては、「公正・公平」の視点での記述が多かった。観客に対しては、「どのように応援してほしいか」についての記述であった。審判をした経験や、オリジナル「フェアプレー」作成の際に、どのように応援するか皆で決める活動を行ったことよって、「する」・「支える」の視点や「フェアプレー」の価値に気づくことができ、審判や観客に目をむけることができたと考えられる。

表5：手紙の内容詳細

選手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守って</li> <li>・審判や相手に文句を言わない</li> <li>・ずるしないで</li> <li>・相手のことを考えて(尊敬して)</li> <li>・審判(ビデオ判定など)が正しかったら素直に認める</li> </ul>
審判	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公平に(不公平をしない)</li> <li>・平等に</li> <li>・審判という仕事に責任を持って</li> <li>・ひいきしない</li> <li>・ルールを破っていたら絶対言う</li> <li>・気持ちで判断しないで、目で見たことを言う</li> <li>・機械を使ったり、人の目を使ったりして正確に判断</li> </ul>
観客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手全員を応援する</li> <li>・自分が応援しているチームだけではなく、いいプレーをしたらどちらのチームも歓声を送る</li> <li>・気に入らないことがあっても判断は審判に任せる</li> <li>・野次や文句を言わないで応援する</li> </ul>



資料4：選手・審判・観客に向けた手紙の内容

## Ⅸ 研究のまとめ

### 1 研究の成果

平和的・民主的な態度を育てるために、以下の3点が成果として挙げられる。

#### (1) 単元構成の工夫

課題解決型の教科横断的な単元構成にし、単元を3つの段階に分けたことでそれぞれの段階のねらいに応じた活動と実践を往還しながら学習することができた。特に、体育授業で審判を行う活動を経験した後に道徳を行うことで、自分の体験をふり返って考えることができた。

#### (2) 「する」・「支える」の立場に分ける

学習活動を「する」・「支える」の立場に分け、視点を変えて活動を行うことで実感をともなった理解につなげることができた。

#### (3) 授業の工夫

育てたい4つの態度と、「する」・「支える」にそった活動や教材化の視点を明確にすることで、児童の活動がより具体的でわかりやすいものにすることができた。

### 2 今後の課題

以下の3点が今後の課題として挙げられる。

(1) 各学年の年間指導計画や、中学校との接続をふまえたプログラムづくりをすること。

(2) オリ・パラ「そのものの学び」を取り入れ、「通じた学び」との系統性をもたせた取り組みを行うこと。

本研究では、「通じた学び」を単元を中心に据えて実践を行ったが、「そのものの学び」を取り入れ、

(3) 地域性のある教材や題材を使って授業を展開すること。

## 【引用文献・URL】

- 1)国際オリンピック委員会 「オリンピック憲章」(2015年8月2日から有効)
- 2)「スポーツ基本法」[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/kihonhou/attach/1307658.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/attach/1307658.htm)
- 3)真田 久「2020年オリンピック東京大会に向けての展望」平成26年2月 体育ジャーナルNo.74 株式会社学研教育みらい pp1-5

## 【参考文献・URL】

- ・スポーツ庁「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて(中間まとめ)」平成27年7月9日
- ・スポーツ庁「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて 最終報告」平成28年7月21日
- ・教育課程特別部会
- ・文部科学省(2008)「小学校学校学習指導要領解説 体育編」
- ・文部科学省(2008)「中学校学習指導要領解説 保健体育編」
- ・文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説 特別活動編」
- ・文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説 道徳編」
- ・白旗和也(2016)「地域・学校における子供のスポーツ機会の拡大」体育の科学 第63巻第3号 pp187-181
- ・教育課程特別部会「体育・保健体育、保健、安全ワーキンググループにおける取りまとめの概要」
- ・金子史弥(2014)「2012年ロンドンオリンピック・パラリンピックの「レガシー」をめぐる政治的言説の創造と政策」実践の展開 ―大ロンドン市における「スポーツ・レガシー」に関する取り組みに着目して―  
―橋大学スポーツ研究Vol.33 広がる「スポーツと社会」研究 pp16-33
- ・間野義之(2015)「レガシーの創造 ～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」  
都政研究4月号 pp4-9
- ・丸山真司(2007)「ドイツの学校スポーツにおけるオリンピック教育の展開」  
愛知県立大学児童教育学科論集 第40号 pp61-74
- ・柳澤良明(2014)「ドイツにおける民主主義教育の実践枠組み」  
香川大学教育学部研究報告 第1部 第141号 pp43-57
- ・志水紀代子(2009)「公教育の場における「公共性」と「民主主義」の原則 ―ドイツでの体験をもとに―  
追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 第5号 pp19-29
- ・舛本直文(2013)「平和の祭典オリンピックと学校教育」 体育科教育12月号 pp30-34
- ・藤田明史(2005)「オリンピックは平和的かーオリンピックの暴力性の問題をめぐって」  
大阪女学院短期大学紀要 第34号 2004pp67-76
- ・田原敦子、池田延行(2010)「ニュージーランドにおけるオリンピック教育―教師用資料」  
国土館大学体育研究所報 第28巻 pp89-93
- ・今井 賛(2007)「ドイツにおける学校スポーツの教育的根拠をめぐる論議の検討―NRW州学習指導要領を中心に―」  
体育・スポーツ科学研究 第7号 国土館大学 体育スポーツ科学学会 pp83-87
- ・山本徳郎(2009)「エケケイリア」、常備軍軽視論(ヤーン)、そして「世界平和宣言」  
体育・スポーツ科学研究 第9号 国土館大学 体育スポーツ科学学会 pp19-23
- ・ますだらな(2014)「オリンピック・パラリンピック教育」が公教育に入ってくる！  
インパクション 197号 pp235-237
- ・田端真弓、榎原浩晃(2013)「中学校・高等学校保健体育「体育理論」領域のオリンピック教材作成の試みーオリンピック競技大会及びオリンピック・ムーブメントの学習内容とその系統性ー」  
福岡教育大学紀要 第62号 第5分冊 芸術・保健体育・家政科編 pp91-101
- ・吉中孝志、海野勇三(2009)「実践記録：中学校体育科におけるオリンピック教育の試み」  
山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 第27号 pp59-76
- ・真田 久(2016)「オリンピック・パラリンピック教育の推進」 体育の科学 第63巻 第3号 pp207-212
- ・濱田 圭、日野克博(2016)「教科横断的な学習によるオリンピック・パラリンピック教育の実践」  
愛媛大学教育実践総合センター紀要 第34号 pp49-61
- ・茨城県教育委員会「道徳のページ 小学校の資料」<http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/shochu/kokoro/sinheart/moral/index.htm>